

●さんむ医療センターについて

**Q** さんむ医療センターの設置者として、東千葉メディカルセンターとどのように連携しているのか。

**A** 市長 連携については、医療の現場でやっていくことですから、設置者として連携していくものではありません。市の立場からしますと、地域の連携を図っていく協力体制をとっていくということになるかと思っています。

政策研究会 関連質問



小川 一馬 議員

●災害復興について

**Q** 山武市においては、震度5強の揺れと大津波により、海岸地域を中心に多くの住民が、その生活基盤、住宅や道路、農地及び車、商業施設等々を喪失するなど、かつてない被害を受けた。

復興計画の中で、まず一番に市民の生命と財産を守るためにどうたっているが、具体的な計画はどうか。

**A** 市長 復旧、復興については、まず市民の安全の確保ということが、確かに最重要でございます。前回以上の大きな津波が襲ってきた場合を想定し、最大10メートルのシミュレーションをしました。その中で、命を守るといふ施策では、まず、避難をする、逃げるということを基本に置かなければならないだろうと考えています。非常の事態でありますし、私ども行政といたしまして、非常時に備えなければいけないということ、全てを守るといふことについては、なかなか難しいというところで、着実に防災力を高めていく努力を、長く続けていかなければということが、山武市としての基本と考えています。

右岸の用地確保について、検討してみても、どうか。

**A** 市長 御提案ありがとうございます。市として、地域の防災力を高める、安心感を高めていくという施策は、可能な限り、やりたいと思っております。優先順位から今は避難道路、避難タワーをまず第一にさせていただいております。今のところ、木戸川の両岸のお話しについては、非常に難しく、全てを単独でやっていくということでは、困難でありますので、まず用地確保については、有利な条件で手に入らな

**Q** 現在、国・県で護岸工事が進められているが、木戸川の左岸、



木戸川護岸工事の様子

お話ししております。そういった可能性が出てくれば、それは考えていかなければいけない問題と考えています。

●防災士の資格取得について  
**Q** 防災、減災意識を高め、被災現場で実際に役立つ活動ができる、日本防災士機構（NPO法人）の認定する防災士を育成すべきと思うがどうか。



高橋 忠 議員

**A** 総務部長 防災について、技術、知識をより高めるため、計画的に職員の育成を図っていくことを考えています。

**A** 総務部長 防災のため、一定の技術、知識を身につけるにはいい機会だと思えます。研修を計画したいと思えます。

**Q** 4月になると、しらはたこども園が開園し、市内のこども園は5つになる。山武地区は公立幼稚園2園、私立保育園2園の状況。日向地区と睦岡地区に、それぞれこども園を以前から提言しているが、その進捗状況はどうか。

**A** 市長 市としては、市全域こども園化を目指しています。山武地区についてもできるだけ早く実現を目指して、保育園側と話し合いをしています。

小規模で開設すると聞いているがどうか。

**A** 市長 平成26年は146床、平成27年は230床、平成28年は314床の部分開設が目標と聞いています。原因は医師や看護師不足ということなので、さんむ医療センターの設置者としては引き抜きにかなりの警戒心を持っています。

●さんむ医療センターについて  
**Q** 来年4月に東千葉メディカルセンターが開設予定だ。人的医療資源の確保が難しいので



さんむ医療センター南棟